

移行期・成人先天性心疾患センター紹介

成人後も続く、先天性心疾患の患者さんへの生涯医療

移行期・成人先天性心疾患センター長

檜垣高史

医療の進歩で先天性心疾患の患者さんの多くが成人し（約95%）、社会生活を送ることができるようになってきました。しかし、小児期とは異なるいろいろな課題があり、成人への移行期を含めて診療や定期検診ができる医療環境と体制が必要になってきました。当院では、成人した先天性心疾患患者さんを専門的に診療するチームを中心として、2021年1月にセンターを立ち上げました。センターでは先天性心疾患など子どもの心臓病の専門知識をもつ小児循環器科と、心筋梗塞や心不全など成人期の心臓病の専門知識をもつ循環器内科の医師が連携して診察。両者の専門知識を掛け合わせることで各患者さんに最適な診療を提供できます。生涯にわたり、適切な医療を受けられる環境となり、医師以外のコメディカルや支援員との連携もできることから、進学・就職・結婚など様々なライフイベントへの相談や支援も受けやすくなりました。認定NPO法人ラ・ファミリエと連携して、自立支援や就労支援にも取り組んでいます。今は先天性心疾患のみですが、医療のあるべき姿としては、全ての先天性疾患についての生涯医療の構築が必要だと考えています。



PROFILE

ひがきたかし◎1988年愛媛大学医学部卒業。2015年4月に地域小児・周産期学講座教授に着任。2021年1月より現職（併任）。専門は小児循環器。ラ・ファミリエの理事長として慢性疾患児の自立を支援している。趣味は中学生から続けている卓球。